8　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

〈首都大学東京〉　二〇一五年度出題

　辞典の読者と辞典編集者とが行き違うことがあるとすれば、一番の理由は、おそらく、ことばの正しさについて、辞典読者が辞典編集者よりずっとＡ楽天的だという点にあると思われます。

　古典文学などに現れて以後まったく使われないようなことばでなく、現代社会の中で生きていることばであれば、今に至るまでに必ずなんらかの変化を受け、また今も変化し続けている─―いささかでもことカンサツすれば、それは明らかです。

　その変化とは、もとの意味・用法からの逸脱です。それを「乱れ」と呼ぶのであれば、ことばはいつも「乱れ」ています。しかし、ことばの正しさとはいつの時点での姿を言うのでしょうか。いまの日本語は乱れているから、奈良時代のことばに戻れ、とおっしゃる方はいません。現在から見て少し過去の辺りの日本語を「正しい」として、そこからの「変化」を「乱れ」とナゲかれるのです。

　ことタえず変わっていることを、辞典編集者は仕事柄忘れることができません。しかし、辞典を使う方は時折それに気付いては、不快に思ったり怒ったりされるのです。変化することこそ通常のあり方であることばについて、辞典が忠実であろうとすれば、現時点で大勢が使っていることばをそのままに記述し、せいぜい変化してきた経過について言及する、といった姿勢をとるほかにはありますまい。

　辞典を使われる方が「正しい日本語を」と言われる内容は、「変化」「乱れ」を抑えようということの他に、実は、もう一つあるようです。それは、ことばの意味はいつも「正確」「厳密」であるべきだ、とすることです。正しいことば（単語）は、いつどんな場面においても、きちんとその単語に対応した普遍かつ不変の意味領域を持つべきだ、とでも言うようなＢ信仰です。

　そのような深い信仰心を持つ方は、辞典に「正しい日本語」というよりは「厳密な定義」を要求されるのです。「辞典はことばを定義するもの」とおっしゃる方もいますが、それは違います。国語辞典はことばの意味を記述しますが、定義はしません。

　「老人」とは厳密には何歳からを言うのか、「未明」は何時から何時までか、「岩」と「石」と「砂」、あるいは「湖」と「沼」と「池」とはどう定義されるのか。そこを厳密にしたからといって、日々の生活が特に変わることもないという問題が大半ですが、気になると、きちんとしないではいられなくなるもののようです。電話でいきなり「夜中に日付が変わる瞬間は、今日の内に入るのか翌日か（一二時か〇時か）」などと聞かれると、とっさに何のことかととまどうのですが、辞典編集部にこうした問い合わせは少なからずありまテッテイ的に厳密にしたいのであれば、すべて定義づけたことばだけで、その定義が通用する閉じた世界の中で生きるほかないのですが、厳密屋さんはそうしたことが可能だと思っておられるようなのです。

　「定義」というのはＣある特定の世界の中での約束のことです。このことばはこういう時にこういう意味で使うことにしましょうという取り決めに他なりません。私たちは時としてその世界の中で会話することもありますが、いつもはもっと広いのびのびとしたところで、特別に約束をしたこともないことばを使って、感じたり考えたり表現したりしています。そのことばを、人工言語に対して自然言語と言うこともあります。一般の国語辞典はその自然言語の辞書なのです。一方、ことばを定義している辞書は専門分野の事典や用語集に見られます。

　先の「老人」について、普通の国語辞典は「年とった人。年寄り。」くらいしか書いてありません。何歳から、などという明確な取り決めは自然言語にはありません。それは、行政上の都合とか統計をベンギとかのために役所や法律が、例えば「老人福祉法」では六五歳以上を「老人」とする、と決めただけのものであって、「老人」の意味ではありません。にもかかわらず、「老人」ということばの意味がだなどということはないのです。「老人」の語は、さまざまの場面でさまざまの対象（人）を指すことが可能ですが、その対象（人）をどうえようとしているか、それらに向けた視線の方向は共通で、多くの人々に共有されているのです。対象を捉えようとして向けた視線、その向きがＤことばの意味というものであろうと思うのです。

（『辞書の仕事』より）

問１　傍線部（ア）～（オ）のカタカナの部分を漢字で記せ。

問２　傍線部Ａ「楽天的だ」とはどういうことか、本文に即して説明せよ。

問３　傍線部Ｂ「信仰」とはどういうことか、本文に即して説明せよ。

問４　傍線部Ｃ「ある特定の世界」とはどういうものか、本文に即して説明せよ。

問５　傍線部Ｄ「ことばの意味」とはどういうものか、本文に即して説明せよ。

◎問６　辞書の記述についての筆者の考えを一〇〇字以内でまとめよ。

【解答と採点基準】

問１　（ア）＝観察　（イ）＝嘆　（ウ）＝絶　（エ）＝徹底　（オ）＝便宜

問２　Ａ辞典編集者はことばは絶えず変化するという本質を常に意識し、それを何とか辞典に反映させようと苦労しているのに、Ｂ辞典読者は変化を乱れと捉え、正しいことばがあると安易に考えているということ。

Ａ・Ｂの対比がなければ全体０。

Ａ＝５〔「ことば」は「変化する」がなければ０。〕

Ｂ＝５〔「正しいことばがあると考えている」がなければ０。〕

問３　Ａ本来ことばは時と場合によって意味も異なるが、Ｂ正しいことばはどの場面でも普遍かつ不変の意味領域を持つべきだと信じて疑わず、Ｃ厳密な定義を辞典に求めること。

Ｂがなければ全体０。

Ａ＝３／Ｂ＝５／Ｃ＝２

問４　Ａ便宜上意味が限定されたことばを使用せざるをえない、人間がＢ限定的に作り上げた、専門的な世界。

Ｂがなければ全体０。

Ａ＝４〔「便宜上」と「ことばの意味を限定」がなければ０。「限定」は「取り決めた」も可。〕

Ｂ＝６〔「専門的」がなければ０。〕

問５　Ａ対象を厳密に定義するものではなく、Ｂさまざまな場面や対象に応じつつ、Ｃ多くの人が共有している、そのＤ対象を捉えようとする意識の方向性。

Ｂ・Ｃ・Ｄがなければ全体０。

Ａ＝３／Ｂ＝２／Ｃ＝２／Ｄ＝３

問６　Ａ辞書には厳密な意味が求められる専門的事典と自然言語の辞書があるが、Ｂことばは変化するという本質をふまえた上で Ｃ後者は現在ことばの指す対象がどのような捉えられ方で人々に共有されているかを記述するものである。（１００字）

Ｂ・Ｃがなければ全体０。

Ａ＝３〔「厳密な意味が求められる」は「ことばを定義する」でも可。〕

Ｂ＝３／Ｃ＝４